

「継承と創造、そして飛躍の予感」

第19回 大分県民芸術文化祭参加行事

# 第19回 横光利一俳句大会

～入賞作品集～



表彰式 平成29年10月21日(土) 午後2:00～3:30

宇佐市民図書館 視聴覚ホール

主催／宇佐市・宇佐市教育委員会・豊の国宇佐市塾  
後援／大分県・大分県民芸術文化祭実行委員会・NHK 大分放送局  
OBS 大分放送・TOS テレビ大分・OAB 大分朝日放送

第十九回 横光利一俳句大会 入賞作品

【一般の部・特選】 十句

横光利一俳句賞

躰系さらりと抜けし終戦忌

植田桂子

高松市

大分県知事賞

遺されて女へ還る揚羽蝶

高橋千恵

久留米市

宇佐市長賞

ふかし諸言葉やさしくなりにけり

井ノ口睦子

中津市

宇佐市議会議長賞

背の高き冷蔵庫より森の水

桑原千代

宮崎市

宇佐市教育長賞

裏庭の錆びたる鎌や蝉しぐれ

小川恵子

上毛町（福岡）

大分県北部振興局長賞

復員の父に一夜の白緋

岩橋玲子

久留米市

宇佐市民図書館協議会長賞

辻馬車の蹄行き交ふ夏野かな

小野澄子

上毛町（福岡）

豊の国宇佐市塾賞

はばたけるものへ等しく空澄めり

中尾豊子

大分市

浅井慎平選者賞

冬銀河浮き世の銚となりけり

安藝達也

鳴門市

野中亮介選者賞

熱帯夜胸に冷たき乳房ふたつ

池田典子

篠栗町（福岡）

【中学生以下の部・特選】

十句

横光利一俳句賞

ばあちゃんのうしろでまねするぼんおどり

川鶴大和 院内中部小学校三年

大分県知事賞

走る雲若葉かすめてバトンパス

千代田堅仁 檮台中学校二年(埼玉)

宇佐市長賞

さわがにがしらなみあいてにすもうとる

黒田愛理 駅館小学校三年

宇佐市議会議長賞

熱帯夜毎回同じ夢を見る

境 武尊 檮台中学校三年(埼玉)

宇佐市教育長賞

せみの声私の心つき抜ける

山内はるな 大分市明治小学校六年

大分県北部振興局長賞

チューリップ輝く色はそれぞれに

松田敏英 中津市今津中学校三年

宇佐市民図書館協議会長賞

新記録でた日の空に大入道

加来大凱 安心院小学校五年

豊の国宇佐市塾賞

天の川僕らを見つめ過ぎて行く

佐藤智陽 寄島小学校六年(岡山)

浅井慎平選者賞

瀬戸内の夏の青さに貨物船

福島綾乃 檮台中学校三年(埼玉)

野中亮介選者賞

あの夏が教えてくれたくやし泣き

宮丸朋弥 院内中学校三年

【一般の部・秀作】五十句

棘のある草に触れきし盆の道	有宗真弓	別府市	はんぎきの水くづしつ歩みけり	金澤諒和	大分市
炎帝やりユツク二つがやって来る	石井明美	津久見市	ほほづきを鳴らせば母のくる気配	京野幸子	大仙市
双肩に食ひ込むリュック敗戦日	伊南朋朗	大分市	初秋や書肆に新刊書の匂ひ	桐村佳苗	上毛町
石炭の色を残して芙美子の忌	井上寿子	直方市	風鐸に色なき風の東山	小池令子	京都市
鳥のゐぬ鳥かご下がる原爆忌	岩波千代美	大分市	針山の針錆びしまま秋に入る	河野美千代	国東市
子はいつも母の先行く花野かな	白木スナエ	上毛町	蓮池のうしろを風の海へ抜け	小坂優美子	射水市
秋燕飛んで町の子出家する	宇戸美和子	大分市	向日葵や十万本の地平線	齊藤政子	大分市
鬼杉の威厳色なき風の中	大江正人	中津市	かまつかの色には触れず立話	佐藤佳津	津久見市
朝曇草刈る鎌を二丁研ぐ	大隈草生	宇佐市	ふるさとの潮騒遠し三尺寝	下川富士子	玉名市
朝虹に祈り夕虹には語り	大波多美妃	豊後高田市	たとう紙の小さな紐や春の宵	大長ミサ子	篠栗町
公園の蛇口上向き震災日	岡 汀子	三木町	万緑や地卵一つ手のひらに	高野ちか子	大分市
水を吹く風に吹かれて秋涼し	押谷 隆	別府市	記憶より淋しふるさと夜店の灯	多田淑子	東広島市
桜葉降る本尊は焼仏	勝浦龍三	大分市	ひぐらしや金剛杖に金の鈴	坪井洋司	福岡市

盆道を繕ふ部活帰りの子	利國春美	高松市	原稿の枅目埋めゆく法師蟬	平田はつみ	杵築市
若き日の夫の封書や秋の風	富尾和恵	大分市	沖繩や耳の奥まで蟬しぐれ	淵野陽鳥	大分市
海拔を記す電柱日の盛	富川元女	大分市	今朝の雨乗せて釣船草揺るる	豊東美智子	大分市
納豆の口に粘りや梅雨に入る	内藤節子	上毛町	絵日記の朝顔紺の揃ひけり	本田加志子	玉名市
夢のなか熊蟬の声あらあらし	中村祐子	福岡市	時雨忌や蓑には蓑の影法師	益田竜昇	大分市
一生涯古文書守として晩夏	中山幸枝	篠栗町	抽出しを開けて残暑やまた残暑	松本みゆき	大分市
路地裏の延命地蔵油照り	南雲玉江	別府市	汗ばみて男結びの荷をつくる	松本己代子	中津市
押入れを開けて銀河のど真ん中	西史紀	長崎市	空蟬の目玉残して壊れけり	宮野和子	上毛町
新涼や牛もまばらな牧の塩	彦坂正孚	太宰府市	ひらひらと旅案内や小鳥来る	村上君代	大分市
落椿夢の続きを見ておりぬ	平田香蓮	宇佐市	榎花のねじれねじれて真直ぐかな	森永英子	玉名市
超辛口一本朴の咲きにけり	平田笙子	福岡市	風涼し布地を滑る裁鋏	吉賀京子	臼杵市
掩体壕前にアメリカカハナミズキ	平田崇英	宇佐市	小さき手に触れさせ放つかぶと虫	米持知子	宇佐市

【中学生以下の部（小学生以下）・秀作】二十五句

こおろぎが夜にでてきたもう秋だ 新巻大雅 竹田市久住小三年

やみの中線香花火集まるよ 今西絢菜 大分市明治小六年

砂浜でサーファーたちが波を待つ 岩本拓真 和間小六年

なつかしきハエ取りリボン城下町 大森海斗 杵築市大内小四年

せわしすぎぼくのトマトがかれちった 織田 慎 安心院小二年

あさがおが3つさいたよおかあさん 北山陽彦 上毛町南吉富小一年

ひまわりが空に向かえば夏が来る 小林莉子 安心院小四年

夏草の鎌にポタポタあせ落ちる 近藤伶音 深見小五年

みんなのね笑顔を花火で打ち上げる 佐藤菜々美 佐田小六年

ぜりーがねぶるぶるするのがなみみたい 柴田梅乃 四日市南小一年

水面にそっくりうつる入道雲 高畑香鈴 西馬城小四年

町じゅうの笑顔が集まる夏祭り 竹林醇也 豊川小六年

今年竹二人いっしょにてんたかく 立川真於 由布市谷小四年

コオロギが静かな夜に歌ってる 津々見一翔 高家小六年

ひまわりとともに大きくなつ休み 西村志桜 封戸小二年

はちのすをどこにつくるかまよってる 橋本煌生 伊賀市柘植小二年

なんにでもくつついていいかたつむり 平岡蓮都 由布市谷幼稚園

あさがおとどっちが早くおきるかな 廣岡陽茉莉 宇佐小三年

ばあちゃんとしろつめぐさでかみかざり 松山心暖 柘植小一年

食卓に似た顔そろうお盆かな 森本秀明 駅館小六年

あさがおも笑顔も満開夏休み 山口蒼生 八幡小一年

波が引きやどかりたちはおひっこし 山田和馬 長洲小四年

かたつむり葉っぱについたアクセサリ 吉田倅菜 大分市明治小六年

あじさいがモノクロームの町に咲く 吉村知華 大分市明治小六年

ひまわりも頭が垂れる始業式 四井麻耶 豊川小六年

【中学生以下の部（中学生）・秀作】二十六句

あめんぼがプールの中で泳いでる 石井結杏 北部中三年

夏空のしずむ夕日が背をてらす 石橋乃彩 西部中一年

向日葵を手にした君に笑顔咲く 大野菜々美 大分西中三年

薬師寺と風に吹かれる新樹かな 大橋 凜 国東市武蔵中三年

向日葵と毎日やった背比べ 岡本拓巳 宇佐中三年

花火見ていっしょに消えた恋心 小野 輝<sup>あきら</sup> 院内中三年

夏の夜星座に想いをうちあける 小山美祐 西部中二年

あまがえる七色の橋ほめて鳴く 河野晏奈 安心院中三年

幼き日夢中で遊んだ落ち葉ふみ 北山美有 本耶馬溪中三年

風がふきむぎわらぼうしを追いかけて 木本 心 西部中一年

川遊び無邪気な君も愛しけり 後藤涼花 西部中三年

ひまわりよ元気な君は美しい 後藤なずな 安心院中二年

手をそえて心ぬくもる火鉢かな 小林ななみ 宇佐中三年

さようなら消え行く君はシャボン玉 財前拓実 豊後高田市田染中三年

寒くなりこたつの中は足いっぱい 斎藤若奈 玖珠町北山田中三年

失恋し夜のみなもに月の影 佐藤翔哉 院内中三年

青い海麦わら帽子砂浜に 城崎惣也 西部中三年

片隅の眼鏡に映るいわし雲 関 詩織 大分西中三年

お盆時期吹奏楽部も全休符 高本唯衣 長洲中一年

陽炎のむこうにゆれるアスファルト 谷口 温 大分西中三年

浴衣から芽生える恋はもどかしき 時枝香苗 北部中三年

梅雨の雨日々の思い出ながされた 野畑慧伍 西部中三年

川遊び勇氣を出してとびこむぞ 久恒希侑 安心院中一年

君想う線香花火ゆらさずに 姫野舞桜 大分西中三年

清水の上に広がる五月晴れ 藤井光時 国東市武蔵中三年

靴ずれの君に汗の手で絆創膏 山脇銀史郎 小川町檮台中二年

【一般の部・佳作】一四九句

復興の水車の鼓動稲の花	赤松千代子	中津市	仏堂の軋む廊下や秋の空	岩花太美	上毛町(福岡)
来月へ持ち越す疲れ熱帯夜	上尾ヤス子	大分市	道祖神コスモス揺れる分れ道	植田正太郎	高松市
青空のどこまで高し曼珠沙華	秋吉晴子	上毛町(福岡)	広鏝の似合ふ新妻風薫る	内尾一實	上毛町(福岡)
田水張る端より雲のくずれけり	秋吉美津恵	上毛町(福岡)	盆歌のかすかに聞こゆ妻の里	独活山強実	添田町(福岡)
みどりごを抱き見てをる踊りの輪	東 恭生	白杵市	初秋の言葉やさしく返しけり	江藤清彦	別府市
歩むほど旅愁増しけり秋ともし	安部とみ子	大分市	郭公や日に一便の村のバス	大石敏子	上毛町(福岡)
陶工の陶土を奪ひ梅雨出水	安倍日出	宇佐市	首細き有田の壺や梅一輪	大木本法通	上毛町(福岡)
柏手のきれいに揃ひ豊の秋	荒巻勝郎	上毛町(福岡)	秋晴や力士は高く四股を踏む	太田省三	池田市
木漏れ日の濃淡ゆるゝ初秋かな	池村惇子	大分市	廃校のあけびの垂るるうさぎ小屋	大對礼子	篠山市
冬の闇古井戸の中覗き込む	石川正尚	江戸川区	冬来る鎧うて敵を待つごとし	岡 恵子	秋田市
水打って来て考へのまとまりぬ	磯永喜八郎	宇佐市	片陰や勅使街道狭きまま	岡嶋 明	宇佐市
愚も賢もランドセル置き土筆摘む	井田あさみ	東近江市	菜の花や岬を過ぐる油槽船	尾形 忍	上毛町(福岡)
シャツよりも汗の重たくなって来し	井田寿一	東近江市	傷をもつ幹に夏蝶寄りたがる	岡村行雄	さいたま市
蛸や母の厨に母と立ち	井手久美子	北九州市	ひらがなのさそひの文や運動会	奥野律子	宇佐市
師の句集膝に繕く夜長かな	糸永悦子	別府市	折鶴の紙に戻りし九月かな	小田祥子	津久見市
折鶴は手が覚えをり水の秋	井上アサ子	久留米市	掛け流す湯の音転ぶ月明かり	小野真一	由布市
夜店へと繰り出す子らの跡の数	井上 靖	小田原市	白面の青年僧や夏衣	小野智輔	大分市
			バリカンの音軽やかに昭和の日	小野瑞季	由布市
			吉神籤芽木の風ごと括りけり	尾平貴子	杵築市

朝涼や茶粥をすする宇陀の郷	垣内孝雄	那須塩原市	ハイヒールこつこつ響く日の盛り	後藤美子	白杵市
ニーチェの書かたはらにして大昼寝	景山典子	さぬき市	花便り嬉しき事の秘めきれず	小林勝子	福山市
来し方を語り語りて古りし雛	勝浦弘子	大分市	一人居に慣れれしが淋し昼の虫	近藤七代	豊後高田市
ペンダント揺らし踊りの輪に入りぬ	加藤隆二	秋田市	しぐれゆく那須の山々鳥しづか	齋藤 稔	矢板市
ラムネ飲むとうの昔を転がして	金子 徹	富士市	流燈や近き川より妣送る	坂本首夏生	南関町(熊本)
遠き日に姉と競ひしほおずき笛	神本多貴子	中津市	昭和の日テレビは安く薄くなり	坂本雅則	名古屋市
白球の土を払いて日焼け顔	川島典子	京都市	ゑのころの株ごと揺るる海の風	佐々木多恵	別府市
正面に由布仰ぎみて大花野	河野二三子	宇佐市	恋はただ月の兎と弾みけり	獅子谷雪	所沢市
タロットの最後の一枚星夜月	岸本恵美	大分市	擦り切れてしまひさうなり扇風機	渋谷史恵	多賀城市
郭公や朝飯前の畑仕事	木下テル子	上毛町(福岡)	なづな摘む母は小さき人となり	嶋 良二	日進市
猿山の猿も隠れてゐる暑さ	木村和人	豊後高田市	秋祭大名行列二百人	首藤加代	大分市
ソーダ水を一気飲みする喉仏	木村綺羅々	中津市(高校)	迎火や老いたる農の太き指	末久正子	上毛町(福岡)
心にも風を通して更衣	清田泰世	大分市	せみの声きいてうなずく夏がきた	末広航太郎	中津市(高校)
肩に来て一服ながき油蟬	工藤ミヨコ	大分市	からすあげは小さきブラックホールかな	鈴木歌織	豊川市
黴の香の日記に母の細き文字	久保田聡	川崎市	矢を放つまでの静寂雲の峰	鈴木 仁	大仙市
乳母車の大きな瞳夏の蝶	熊地タマリ	上毛町(福岡)	新涼や流れはじめる砂時計	砂山恵子	西条市
朝焼や光合成の地球なり	黒木成剛	龍ヶ崎市	螢火や故国へ帰る老神父	相馬正道	八戸市
風鈴のあの世この世を往き来する	古賀紀子	大牟田市	胸冷ゆるまで滝の奥見つめけり	高木ミツヨ	玉名市
火の束として買はれゆく唐辛子	後藤南女	大分市	あざさゐの青のみが色無人駅	高久真理子	篠栗町(福岡)

叱る子もなくて香薫く竹の春	高瀬春遊芝	豊島区	かなかなの子守唄聞き老いにけり	中根美由紀	中津市
少年院脱け出し潜む草いきれ	高本和子	玉名市	表札の変わりし家に燕来る	中野清彦	伊豆市
滝壺に積む流木の白さかな	武内政行	日田市	雨雲を踊太鼓の弾きけり	永松市夫	宇佐市
サングラスちよつと年上気分です	竹田 楓	中津市 (高校)	組板に注ぐ熱湯原爆忌	中山恵美子	上毛町 (福岡)
秋深し夕日の色の里心	多田恵子	古賀市	トラックに揺れる電柱敗戦日	野上 卓	世田谷区
山水の白磁の皿や桜鯛	田長丸桂子	中津市	刻々と進みゆく世や鉦叩	野中安子	大分市
草青む朝の散歩の足運び	田中英俊	宇佐市	くるぶしは草に埋もれ秋彼岸	信安淳子	岡山市
浴衣着て静かに見上げた夏の空	田中茉織	中津市 (高校)	職人のねじり鉢巻雲の峰	信安千代子	上毛町 (福岡)
海うねる鎮魂の薔薇投げてより	田邊博充	国東市	霧の尾を曳きて修験の行者来る	箱壘八郎	福岡市
秋の夜のヒロイン死ぬ文庫本	千島宏明	藤岡市	四方より冬日差し込む観覧車	橋爪あゆみ	入間市
六道は地図になき道麦の秋	千葉れいか	川崎町 (福岡)	叱られて風鈴の舌じつと見る	橋本勝利	大分市
それぞれに指定の席や夕端居	筒井徳子	上毛町 (福岡)	少女らの歌声清し長崎忌	橋本真喜子	由布市
ひまわりは光のほうへ生きている	堤 玲央	中津市 (高校)	夕涼み等間隔の鴨河原	八田幸夫	近江八幡市
サーカスの少女の足や盆の月	角森玲子	安来市	迎撃の配置ありし日雲の峰	馬場美江	別府市
グラウンドをとんぼのよぎる試合中	遠見百合子	津久見市	辻馬車の蹄の音や夏木立	飯田勢津子	上毛町 (福岡)
苦瓜の庇綾なす赤提灯	富田湖人	津久見市	亡き母と過ごした日々の日焼け跡	樋口盛一	中野区
暑い夏仲間と共に流した汗	中尾友紀 <sup>ゆき</sup>	中津市 (高校)	春愁や改札口に差す切符	樋田征子	宇佐市
小鳥来る広場の石に赤き文字	中田恵美子	玉名市	医者ひとり看護師ひとり島の秋	日野百草	日野市
松手入れ終へたる風の透き通る	中出美司子	京都市	さて何せむか長き夜のはじまりし	平田節子	大分市

この窓に景のひとつに遠花火	平田初子	大分市	大花野美しければまた寂し	水田和代	白杵市
千し布団母の手縫ひの衿枕	平山 藍	大分市	日の本を北へ縁取る花筏	水村 凜	御坊市
階下より蒼求焚くか匂ひくる	廣瀬倭子	大分市	あやとりのような吊橋青嵐	村上啓子	津久見市
水音に誘はれ歩む稲田みち	福田存君	日野町 (滋賀)	うららかやいつでも海の見ゆる丘	村上三枝	大分市
訪ぬれば母合掌す秋日和	藤井隼子	大分市	禅林の母を呼ぶごと夕ひぐらし	森田君子	さいたま市
赤子抱く山車曳き終へし腕に抱く	藤崎由希子	宗像市	百まではまだ十年よ鰻食ふ	森田公司	さいたま市
店先の子らの自転車氷旗	藤本正吾	上毛町 (福岡)	白壁にある空蟬のいのちかな	森ミネ子	大分市
稚茸をゆつくり戻す今朝の秋	藤原弘美	北九州市	海鳥の胸毛ふはりと新樹光	安枝俊子	上毛町 (福岡)
病葉を軽くいなして池の鯉	二村久美子	津久見市	川釣りの子の新しき夏帽子	山本健人	大分市
戦争を忘れさせない夾竹桃	古川和子	鈴鹿市	盆の家小さな靴の揃ひけり	山本美弥子	上毛町 (福岡)
つくばひに化粧直しの小鳥来る	古川みつよ	津久見市	子猫抱くために溜息逃がしけり	雪吉千春	福岡市
湯豆腐で角のとれたる夕飼かな	星野春男	中津市	秋ゆくか一筆のひこうき雲に乗り	横光貞学	福岡市
たつぷりと夏至の一日を野良仕事	細谷拡一	中津市	用済みの案山子着た切り納屋の奥	吉田節夫	野洲市
合わす掌のそれは優しき踊かな	牧 一男	大分市	ラムネ瓶地球の果ての掌	吉田ひろみ	市原市
酔いしれて船頭唄や青嵐	松成徳子	宇佐市	裸木や殺風景な部屋に居る	吉本栄子	津久見市
何処までも水鉄砲の狙ひ打ち	松原幹夫	由布市	倒れたる墓石の下の蟻地獄	吉本シトミ	玉名市
青田波掩体壕は佇みぬ	松村勝美	由布市	永らへて母に似て来し木ノ葉髪	若松章子	富山市
嫁きゆく街から村へ虹の橋	松本昌三	榛東村 (群馬)	春近しパン屋の売り子鈴鳴らし	鷺津誠次	可児市
せせらぎの音に混じりて螢とぶ	松吉優斗	中津市 (高校)			

第18回「横光利一俳句大会」表彰式当日句入選作品(平成28年10月22日)

野中亮介・選

【特選】五句

湯けむりを突き上げ豊年踊りかな

岩波千代美(大分市)

菊人形枯るる姿は見せぬまま

益田竜昇(大分市)

鳥渡るキャンセル待ちの旅靴

高野ちか子(大分市)

蓮の実の飛んで素顔の風となる

佐藤佳津(津久見市)

一つづつ一つづつ過去木の実落つ

平田節子(大分市)

【秀作】五句

曼珠沙華筋を通して憚らず

向坊尚子(北九州市)

爽やかに利一の筆とまみえけり

平田笙子(福岡市)

母の刺繍ありしリネンの菊枕

神本多貴子(中津市)

枯尾花四方のお山をみて遊ぶ

吉本栄子(津久見市)

ベーグルの焼きたての札小鳥来る

松本みゆき(大分市)

編集・発行 宇佐市民図書館 平成29(2017)年10月21日

〒879-0453 大分県宇佐市上田 1017-1

TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679

URL.<http://www.usa-public-library.jp/>